



QRコードを読み取り、令和元年9月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



わたなべ よしまさ
渡辺 佳正 議員
(日本共産党議員団)

ゲノム編集食品への対応は

問 安全審査や表示義務のないゲノム編集食品について、市はどう対応するのか。

部長 市の農業経営や市民の食生活に広く影響する問題だが、国からの情報が不足しているため、対応に苦慮している。

市長 ゲノム編集は細胞の核をいじるという点で、生命の根幹に関わり、捨て置けない。市民に情報提供すると同時に、学校給食や環境への影響など、市として勉強していかなければならない。

小学校夏休みの自由プールをもっと増やせないのか

問 今年の夏休み、市内小学校の自由プール実施状況は、0日が7校、1日～5日が8校、6日～10日が6校。自由プールの意義と実施日数をふやすことについて、教育長の認識を伺う。

教育長 自由プールは意義のある活動であり、必要性はある。しかし、文部科学省の通知で「夏季休業中のプール指導は、本来は家庭や地域社会が担うべきであり、教員は休日を夏季休業中にまとめ取りすることが有効である」方針が示されているため、自由プールを今以上に増やすのは難しい。

問 夏休みに休みをまとめてとるという変形労働制の考えでは、学期中にいくら働いても夏休みで解消するという考えにつながり、教員の時間外労働延長に拍車がかかる。自由プールについては、子どもと保護者の意見を聞いて、今後の対応を考えてもらいたい。

教育長 子どもの安全安心が確保できるかどうかという観点から、保護者や地域の方と話をしていく必要があるので、校長にお願いしていきたい。



いなば こうじ
稲葉 晃司 議員
(蒼天)

富士宮市立病院の現状について ～地域医療を守るために2019 その2～

問 富士宮市立病院の経営戦略会議において、他病院にあり市立病院にない診療加算を取得していくとのことだが、取得を予定している数と取得後の収益への影響はいかがか。

病院長 今年度新たに算定可能としたものは画像診断管理加算の2、褥瘡^{じくそう}ハイリスク患者ケア加算、認知症ケア加算1の3種類。これらの加算取得後の収益は、画像診断管理加算2は1980万円、褥瘡ハイリスク患者ケア加算は460万円、認知症ケア加算1は750万円となり、これらを合算すると3200万円の増収が見込まれる。今後も引き続きさらなる加算の取得を検討し、収益の確保に努めていく。

問 経営戦略会議の中で新たな取り組みに対する議論はあるのか。例えば性差医療取り組みとして女性外来の導入など検討できないのか。

病院長 性差医療とは、男性と女性の差異により、病気の発生や症状の差異を性差に配慮して行う医療。女性外来は、性差医療の取り組みや女性特有の悩みなどの相談といった女性患者のニーズから導入されている。仮に女性外来を当院で実施する場合、複数の診療科があり、また女性の医師が対応することで女性の患者にとって症状を相談しやすい環境となり、気軽に受診できると考えられる。しかし、実施するにあたり、必要なスペースの確保、対応する医師の確保、一人当たりの診療時間が長く、病院経営上のメリットが望めないなどの問題があり、今は難しい状況にあると思われる。女性外来は今後ニーズが一層増加してくることが予想されるので、今後の課題にしたいと考えている。